

令和 5 年 7 月

定 例 教 育 委 員 会

新 庄 市 教 育 委 員 会

教育長報告（1）

令和5年度第1回社会教育委員会議について

- 日時 令和5年6月16日（金）午前10時～午後0時10分
- 場所 新庄市民プラザ会議室
- 出席者 社会教育委員
阿部 彰、近江正人、軽部 望、高橋道子、中鉢祐子
沼澤 稔、森 富喜子、山科 通、永井康博
教育委員会
教育長、社会教育課長、社会教育主査、主査、総務主任、
及び各施設の長

■いただいた主な意見

1. 令和5年度生涯学習施設事業計画について

- 総合計画等では10年後の目指す姿を見ながら計画を立てているが、今回の計画は単年度の計画であり、これを続けていったときに10年後や400年プロジェクトがどんな形になっていくのかが見えない。
- 10年後の姿が見えずらいものもあるが、教育ビジョンや目的があって、そのビジョンに向かって一つ一つ積み重ねていくことが必要。
- それぞれの施設は市の教育の重点に沿ってどのように運営しているのか、目標と方針というものを聞きたいところがある。そしてその施設の課題は何なのかというところを確認して、委員としてのどのように関わっていくかというようなところを話せるような会にしていきたい。
- 芸術活動や文化活動の衰退という話があるが、小学校で吹奏楽とか合唱のクラブ活動をやりたいが指導者がいなくて困っているとの話を聞いた。各施設においても指導者確保に困ってしまうことがあるかもしれない。教育委員会として、そのようなことがあったときに指導者を派遣又は紹介できるようなネットワークづくり、システムづくりをしていただきたい。

2. 令和5年度社会教育課主要事業について

- 学校・家庭・地域の連携協働活動推進事業については、地域と学校の連携を進めていくうえで人材の確保・人材育成というものが重要になってくる。以前は人材バンクという制度があって、各市町村から集まってく

る人材情報を教育事務所でまとめて発信していたが、今はそれが不在状況。そのような状況の中で、地域学校協働活動推進員が自らその情報を集め、活用していくべきと思う。

- 有償無償のボランティアを活用するときに、それをコーディネートする人も必要。予算の確保も必要であるため、市のほうできちんと確保していただければと思う。無償のボランティアではなく、きちんと有償で対応するようなシステムが必要。
- 子ども会活動も停滞気味であるなかで、自分の子どもと何か関わりたい、地域の子供たちと何か関わりたいという人が少なからずいるはずで、そういうときに市が有償無償に関わらずうまく繋げてもらえるといいと思う。
- 文化会館の駐車場が非常に使いづらいといった話をよく耳にする。最上公園に行くときに駐車するところがない。
- 小学生などは学区外には行けないこともあり、図書館に行けない子ども達もいる。移動図書館もあるが、各学区に小さな図書館を設置していただけるよう検討してもらいたい。
- 子ども芸術学校について当初5コースで始まったが、残念ながら合唱の部が無くなってしまった。なかなか指導してくれる人を見つけるのが難しいといった状況にある。音楽を通して子ども達がまとまって情操教育をしていくということが大事であり、なんとかして音楽に力を入れていくといった方策をとれないかと思う。また音楽に限らずこれから大事なものは、地域で子どもたちを育てていくためには人材バンクは必要である。
- 新庄で様々な活動をしている方たちがいるが、そのことが世の中に知られていない状況にある。例えばこの地域で開催される様々なイベントや活動、文化財や観光箇所などを一目瞭然に把握することのできるパンフレットの的なものがあるといいと思う。
- これからこの会の持ち方というものを検討していかなければならないと思う。資料を事前に配布してもらっているのだから、施設の事業計画については確認したうえで出席している。施設長の報告に時間をとるよりも、それぞれの方針や課題などについて協議をする時間を多くしてもらおうほうが良い。また施設を視察できるパターンもあればよい。